

3-3 評価項目の設定

行政関係者
ワークショップ

【目的・概要】

最終的に決定する計画の妥当性や優位性を立証するため、今後の検討ステップで複数の比較案を作成しますが、それらの比較案を比較・評価するための「評価項目」を、機能系統図から設定します。

【決定内容】

- ・評価項目

《評価項目の例》

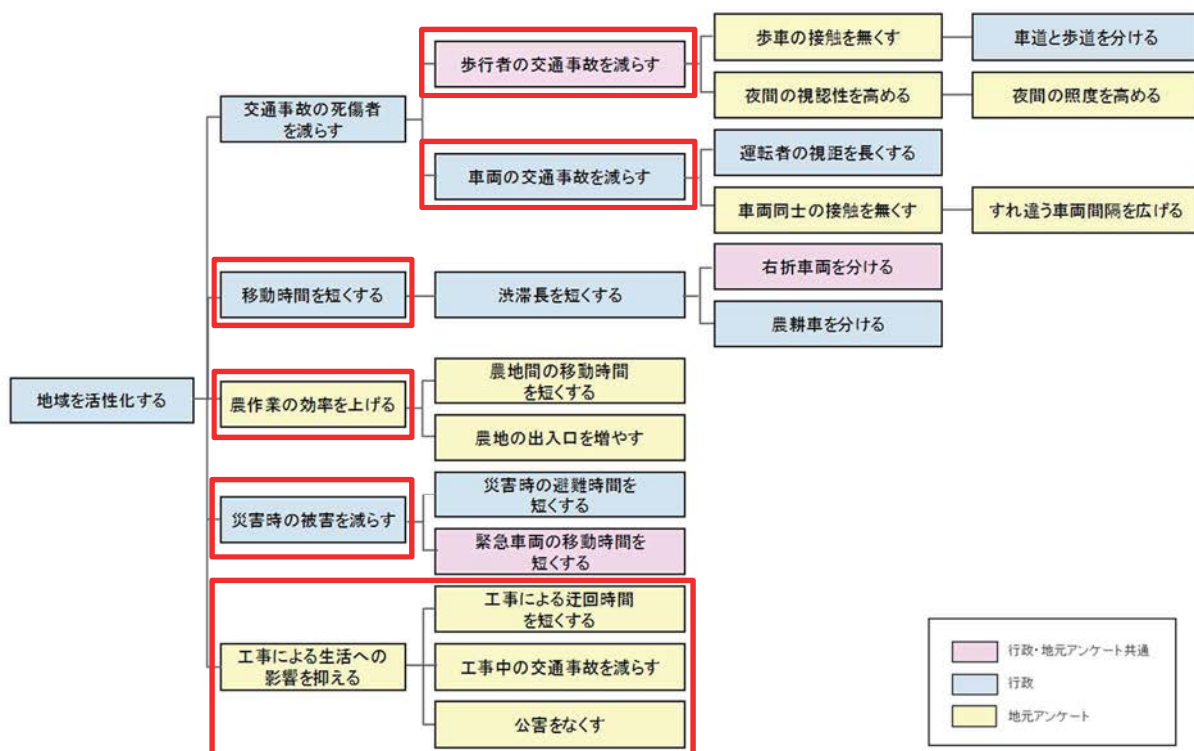
① 歩行者の交通事故を減らす	
② 車両の交通事故を減らす	
③ 移動時間を短くする	
④ 農作業の効率を上げる	
⑤ 災害時の被害を減らす	
⑥ 工事による生活への影響を抑える	⑥-1 工事による迂回時間を短くする
	⑥-2 工事中の交通事故を減らす
	⑥-3 公害をなくす

(1) 具体的な進め方

- 【手順1】機能系統図の一番左の最上位の機能から、概ね3つ目の階層までの機能に着目します。
- 【手順2】概ね同じレベル（階層）の機能で、その事業の評価に適した機能を、「評価項目」として抽出します。
- 【手順3】住民に評価項目として公表した際に、分かりやすい表現となっているかの確認をします。
- 【手順4】行政として重視する評価項目を数個選定します。これは、この後のステップで、住民が重視する評価項目について確認・共有をする際に、県としての考え方を持った上で、住民との合意形成を図る必要があるためです。

(2) 実施に当たっての留意点

- ・評価項目の数があまり多すぎると、評価の観点が分かりづらくなり、住民が混乱することが想定されるため、多くても8個程度までとします。
- ・選定した機能が抽象的すぎる（上位機能すぎる）と、「必要な機能を達成する手段」に関するアイデアが出しづらくなり、具体的すぎる（下位機能すぎる）と、アイデアの発想の幅を狭めてしまいます。



概ね同位の機能を
評価項目として設定



3-4 評価項目の公表、住民が重視する評価項目の確認・共有

【目的・概要】

行政側で設定した評価項目について過不足がないか、比較案を作成・公表する前に、説明会などで住民と確認・共有を行います。また、比較案作成時や最終的な計画の決定時に、着目すべき機能を選定するため、住民が重視する評価項目の確認も行います。

【決定内容】

- ・評価項目
- ・住民が重視する評価項目

(1) 住民に提示する事項

- ・アンケート結果
- ・アンケート結果に基づく行政側で設定した評価項目

(2) 住民から聴きたい事項

- ・アンケート意見に過不足はないか。
- ・評価項目の妥当性、過不足はないか
- ・重視すべき評価項目

(3) 具体的な進め方

【手順1】住民に「アンケートの結果を踏まえ、今後の計画決定に向けた、複数の比較案の作成や評価を行うための「評価項目」を作成した」旨を説明します。

【手順2】アンケート結果と、それに基づき、行政側で設定した評価項目を説明します。

【手順3】その内容を説明し、評価項目が妥当か、過不足はないかを確認します。

【手順4】最後に住民が重視する評価項目について確認します。

(4) 住民説明のポイント

- ・評価項目を説明する際は、それぞれの評価項目の根拠となるアンケート結果（どのような意見が出されたか）をあわせて説明することで、住民意見が反映されており、行政が恣意的に作成した評価項目でないことを説明できます。
- ・アンケートの配付地域、配付数、回収数、回収率を示すことで、地域ニーズ把握の程度を住民に示すことができます。
- ・地元が重視する評価項目を選定する際は、行政側として重要と考える根拠を具体的に説明した上で、住民の意見を聞きながら、確認・合意形成を図ります。なお、その際に、住民の「真のニーズ」の多かった評価項目については、地域の関心が高い事項であり、今後の計画・設計に当たり、十分に配慮すべき要素が含まれているといえます。このため、関心の高い事項の真のニーズを的確に把握できるように、説明会等で意見の背景や理由を丁寧に聴き出すように努めます。
- ・その際においては、単なる多数決にならないよう、後述の「シール・アンケート法」などを活用し、理由や背景もあわせて確認することが重要です。なお、あまり形式にとら

われずに、地域住民と気軽に対話しながら、オープンかつ公平な進め方で、参加者が相互に納得が得られるやり方で進めることが重要です。

・説明会に参加できなかった人に対しても、ニュースレター等により幅広く周知します。

(5) 公表様式のひな形



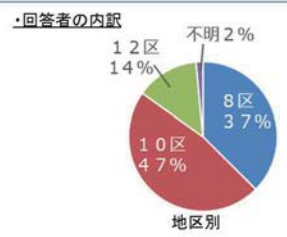
「●●バイパス」の道路計画について、地域の皆さんと一緒に検討を進める場として、昨年8月から9月にかけて『第1回 道づくり会議』が開催されました。(会議の詳細は本通信 No.1を参照ください。) 今回は、その後に実施しました『アンケート調査』及び『第2回 道づくり会議』の内容についてご案内いたします。

「アンケート調査」について

平成29年9月上旬から10月8日までの期間で、本事業の道路計画について地元住民の方を対象にアンケート調査を行いました。アンケートは以下についてお聞きしました。

配布数：662通
 配布先：榛東村8区(203)、10区(320)、12区(139)
 回答数：131通(回答率 約20%)

- Q1: バイパスの計画について、期待すること、気になることや不安に思うことはどんなことですか？
- Q2: バイパスが予定されている地域や場所について、気になることや不安に思うことはどんなことですか？
- Q3: その他、何でも結構ですので、思うことや考えることがありましたら自由に書き下さい。



大きく分けると、こんな意見が出されました！

- 1. 歩行者の交通事故を減らす**
 - ・近くに小・中学校があるため、通学路の安全性を確保してほしい。
 - ・現道に歩道がなく、歩行者が危険なので、歩行空間を確保してほしい。
 - ・道路を安全に横断するため、横断歩道や信号機を設置してほしい。
 - ・車と歩行者が接触しないよう、車道と歩道を分けてほしい。
 - ・夜に歩くと暗いので、明るくしてほしい。
- 2. 車両の交通事故を減らす**
 - ・交差点の事故防止のため、交差点形状をわかりやすくしてほしい。
 - ・交通量が増えることが想定されるため、交通事故が増えないようにしてほしい。
 - ・交通事故を防ぐため、運転者の見通しをよくしてほしい。
- 3. 移動時間を短くする**
 - ・朝夕の交通渋滞があるため、渋滞を緩和してほしい。
 - ・右折待ちによる渋滞を緩和してほしい。
 - ・駒寄スマートICまで早く行けるようにしてほしい。
- 4. 農作業の効率を上げる**
 - ・農地間の移動が多いため、南北方向の通行をしやすくしてほしい。
 - ・農作業に支障がないよう、農地の出入口を工夫してほしい。
- 5. 災害時の被害を減らす**
 - ・災害時においても、通行が可能な道路にしてほしい。
 - ・自衛隊駐屯地が近いので、救援活動がスムーズにできるようにしてほしい。
- 6. 工事による生活への影響を抑える**
 - ・工事中の交通渋滞が起きないようにしてほしい。
 - ・工事中はダンプトラックが増えるため、歩行者の安全を確保してほしい。
 - ・工事による騒音や振動が起きないようにしてほしい。

道路を計画するにあたり
6つの配慮する観点 ※1

1. 歩行者の交通事故を減らす
2. 車両の交通事故を減らす
3. 移動時間を短くする
4. 農作業の効率を上げる
5. 災害時の被害を減らす
6. 工事による生活への影響を抑える
 - ① 工事による迂回時間を短くする
 - ② 工事中の交通事故を減らす
 - ③ 公害をなくす

※1 アンケートで頂いた多くの意見を群馬県で整理させて頂き、バイパスを整備するにあたり「配慮する観点」として7項目に分類しました。

「砂防えん堤整備計画」に関するアンケート結果

「砂防えん堤整備計画」の検討に先立ち、地域の皆様にご意見を伺ったアンケートの結果について、ご報告いたします。

アンケート結果の概要

■アンケート内容

質問1 砂防えん堤整備計画について、期待すること、気になっていることや不安に思うことはどんなことですか。

質問2 砂防えん堤整備計画で、期待すること、気になっていることや不安に思うことについて具体的な場所があれば、ご記入をお願いします。また、その場所の番号を裏面の地図に記入してください。

質問3 その他、何でも結構です。思うことや考えることがありましたら、自由にお書きください。

■実施期間

平成●●年●月●日～●月●日まで

■実施対象

●●地区にお住まいの方

■配布数

住民：55世帯

■回答数

住民21通（[回収率 38%]） ほか2通

「砂防えん堤整備計画」に関するアンケートで頂いたご意見

アンケートで皆様から頂いた「砂防えん堤整備計画」についてのご意見から、どんな整備が必要とされているかを整理しました。

「砂防えん堤整備計画」に求められていること

事業の目的	評価項目
安全な地域をつくる	流出土砂量を減らす
	流出流木量を減らす
	浸水家屋数を減らす
	公害を無くす
	景観の評価を高める

アンケートでのみなさんのご意見（代表的なもの）

安心な地域をつくる

土砂災害の被害を減らす

流出土砂量を減らす

- ・土石流の直撃を受ける恐れがあるので、土砂の流出を抑えてほしい。
- ・大雨の時に、宅地に土砂が入らないようにしてほしい。
- ・過去の大雨で西ノ沢から土砂が溢れたので、下西ノ沢でも同様な被害が出ないようにしてほしい。
- ・沢の下流に県道は迂回路が無いので、緊急車両が通れなくならないよう、土砂の流出を防いでほしい。
- ・砂防えん堤が土砂で埋まると土砂が溢れてくるため、埋まった土砂を撤去してほしい。

流出流木量を減らす

- ・山で倒れた木が、集落まで流出しないようにしてほしい。
- ・倒木や土砂が集落に流れ出ると被害が大きくなるため、土石流を防いでほしい。

浸水家屋数を減らす

- ・大雨で床下浸水になるから、宅地に水が入らないようにしてほしい。
- ・最近の異常気象を踏まえると大雨による浸水被害が心配なので早く工事してほしい。
- ・大雨で沢の流末の水路（側溝）が溢れないようにしてほしい。

公害を無くす

- ・工事において、騒音や振動、土ぼこりがでないようにしてほしい。
- ・西ノ沢の砂防工事では工事車両の通行により道路が傷んだので、工事後に舗装を直してほしい。

景観の評価を高める

- ・砂防えん堤の建設は、周辺環境への影響が大きいため、景観にも配慮した計画としてほしい。

以上の皆様のご意見より、土砂災害から地域と良好な生活を守り、「安全な地域をつくる」砂防事業が求められていることが分かりました。

皆様からいただいたご意見をもとに、砂防えん堤整備計画に求められていることを整理しました。ご意見がございましたら、下記問い合わせ先までご連絡下さい。

アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

■アンケートに関するお問い合わせはこちらまで■
群馬県 ●●土木事務所 ●●





評価項目と比較案は同時に公表しない

重要!

評価項目は、必ず、比較案とその評価を公表する前の段階で住民に公表することとします。
 評価項目と比較案を同時に公表することは、競技の参加者を決定してから、ルールを発表するようなもので、住民から「最終的な計画の決定に向け、県が作為的に評価項目を決めたのではないか」と思われるなど、「行政不信」につながりかねません。
 評価項目について、しっかりと住民の合意を得た上で、「この評価項目に基づき、比較案の検討を行う」旨を住民に説明し、次の段階で「比較案とその評価」について、住民意見の確認と共有を行います。



Q. アンケート結果は、その数を住民に示す必要はありますか？

重要!

A. 評価項目の設定や評価に当たっては、住民意見の多い、少ないだけでは判断せず、地域課題の解決に必要な機能が設定されているか、地域の真のニーズに対応した評価項目が設定されているかで判断します。よって、住民が戸惑わないよう、アンケートで出された、「賛成」「反対」の数や、モノや手段に関する要望の数や割合は住民には示さないこととしています。

ただし、賛成・反対といった表面的な意見ではなく、その意見を述べた理由や背景といった「真のニーズ」の数が多い評価項目は、地域・住民の立場からすると、とても利害・関心が高い事項であるといえます。したがって、住民が重視する評価項目を確認する際には、真のニーズから集計した住民意見の数も1つの判断材料として考慮することも可能です。



重視してほしい評価項目の確認について

評価項目の説明にあわせて、重視してほしい評価項目について、住民に確認することで、その後、比較案を評価する際に、より地域ニーズを的確に反映した評価が可能となるとともに、プロセスの透明性が向上します。

確認に当たっては、説明会において、住民の意向を対話によるコミュニケーションで確認することが理想ですが、あまり意見が出ない場合は、重視する評価項目について、2～3程度挙手してもらう方法の他、以下のような手法もあります。住民に確認する場合、単純な多数決にならないよう、重視する理由や背景なども確認しておくことが重要です。

また、住民に確認する際に、はじめに行政として重要と考える評価項目について、その理由や背景も含め、しっかりと説明しておくことで、事業の目的も踏まえた、重視する評価項目に関する住民との合意形成を図ることができます。

シール・アンケート法

【進め方】

- ①説明会において「評価項目のリスト」を張り出します。
- ②行政としての重視する評価項目に関する考えについて、この時点で理由や背景を含め住民に説明します。
- ③住民に、●型のシールを3枚程度配付します。
- ④重要と思われる評価項目を3つ選んでいただき、リストにシールを貼ってもらいます。
- ④その結果について参加者に説明し、選んだ理由や背景について住民にヒアリングします。
- ⑤それらを踏まえた上で、評価項目の重要度について住民と確認・共有します。

【注意点】

- ・単純な多数決にならないよう、住民に「この集計は概ねの傾向を把握する目的で行う」旨を説明した上で、正確な集計を行う必要はありません。
- ・住民意見の集計結果がすべてではない旨をはじめに説明した上で、住民から理由や背景もしっかり聴くとともに、県の考えも伝え、合意形成を図る必要があります。

《「評価項目のリスト」のイメージ》

評価項目	重要と思われる評価項目にシールを貼って下さい
歩行者の交通事故を減らす	●●●●●●●●●●
車両の交通事故を減らす	●●●●
移動時間を短くする	●●●●●●●●
農作業の効率を上げる	●●●●●
災害時の被害を減らす	●●●●●●●●●●
工事による迂回時間を短くする	●●●
工事中の交通事故を減らす	●●●●●
公害をなくす	●

重要なのは・・・

STEP4 比較案の作成・評価

4-1 比較案の作成

【目的・概要】

最終的な計画の決定に向け、複数の比較案を作成します。

地域が重視する評価項目（真のニーズ）に着目して、複数の比較案を作成し、それぞれの案の評価結果とともに住民に提示することで、より地域ニーズを反映した計画の策定が可能となります。また、最終的な計画を決定する際に、考えられる複数案を可能な限り多く示すことで、はじめて最終的に決定した計画の妥当性・優位性が住民に理解されやすくなります。（1案だけ示したのでは、そもそもその計画の妥当性が評価できません）

【決定内容】

- ・複数の比較案

（1）実施に当たっての留意点

- ・それぞれの評価項目に着目（特に住民が重視する評価項目）し、その項目を満足する比較案を作成します。
- ・相反する評価項目がある場合は、双方がそれぞれ優位となる比較案を作成します。
- ・事業実施の必要性・重要性に関する住民の理解を高めるため、事業を実施しない案についても、比較案の1つとします。
- ・**都市計画道路等について、都市計画決定変更を伴う案を作成する場合は、現都市計画決定案についても、比較案の1つとします。**
- ・なお、比較案の名称は、A案、B案といったものではなく、その比較案の特徴を端的に示した名称とすることで、住民にとって、わかりやすいものとなります。

《比較案の名称設定例》

道路を整備するにあたり
7つの配慮する観点

1. 交通事故を減らす

- ① 歩行者の事故を減らす
- ② 自転車の事故を減らす
- ③ 車両の事故を減らす

2. 歩行者通行の障害を無くす

- 3. 災害による被害を減らす
- 4. 景観の評価を高める
- 5. 商店街の集客を増やす
- 6. 工事による影響を減らす

この評価項目
に着目した案

自転車・歩行者分離案



道路を整備するにあたり
7つの配慮する観点

1. 交通事故を減らす

- ① 歩行者の事故を減らす
- ② 自転車の事故を減らす
- ③ 車両の事故を減らす

2. 歩行者通行の障害を無くす

- 3. 災害による被害を減らす
- 4. 景観の評価を高める
- 5. 商店街の集客を増やす
- 6. 工事による影響を減らす

この評価項目
に着目した案

滞留スペースを設ける案





比較案作成のポイント

河川事業や砂防事業等の防災事業、歩道整備事業等の交通安全事業など、住民意見反映の自由度が低い事業は、「複数の比較案の作成が難しい」という意見があります。

比較案の作成に当たっては、住民が重視する地域特有のニーズ等に注目することが重要ですが、アンケートから地域特有のニーズが把握できなかった場合については、通常的设计業務でも行っているよう施設の配置や工法等の比較検討案について、住民と合意した評価項目に配慮して作成することも可能です。

比較案作成時において着目する機能と比較のポイントの例は以下のとおりです。

【河川事業】

- ・水辺の利用者を増やす → 親水機能に関する比較
- ・景観の評価を高める → 景観に配慮した護岸構造に関する比較
- ・流量を増やす → 河川改修工法に関する比較
(多自然川づくり、水辺の利用形態など)

【砂防・急傾斜事業】

- ・流木の流出量を減らす → 砂防えん堤形式に関する比較(透過型 or 不透過型)
- ・周辺との明度差を小さくする → 砂防えん堤の景観に配慮したデザイン
- ・工事中の騒音を小さくする → 工事用道路・施工計画に関する比較

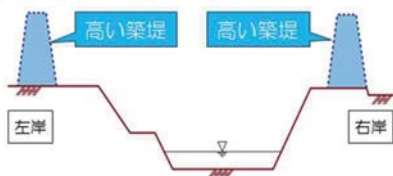
【歩道整備事業】

- ・歩行者の事故を減らす → 歩道の設置位置、両側・片側の比較
- ・自転車の事故を減らす → 自転車通行方法の比較
- ・歩道の利用者を増やす → ベンチや休憩施設に関する比較

《河川事業の比較案の例》

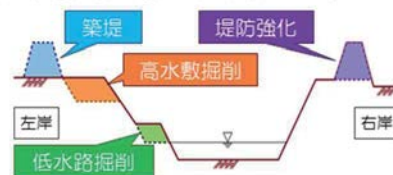
1) 高い築堤案

堤防を高く整備した場合



2) 複合案

築堤、堤防強化、高水敷掘削、低水路掘削を複合的に実施した場合



評価項目	1) 高い築堤案	2) 複合案	3) 現状案
本川の越水量を減らす	○	○	×
支川の越水量を減らす	×	○	×
水辺の利用者を増やす	×	△	○
水生生物の減少を抑える	○	△	○
住民の避難時間を伸ばす	△	○	×